

事業計画書

事業名	街なかの歴史的ストックを活用し市民アートでまちづくり
実施場所	沼津市中心市街地・・・沼津駅～仲見世～新仲見世 界隈
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載してください。 令和6年6月1日～令和7年3月31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載してください（事業の紹介などで使用します）。

沼津市中心市街地において、ビルが解体された結果、隣にあるビルの壁面があらわにされた場所がたくさん存在する。その味気ない無表情のコンクリート壁面を市民アートで描くことによって、街なかを元気にする。2022年に本町「安田屋ビル」がその第1号「壁アート2022」として完成した。引き続いて上土町「大木ビル」について「壁アート2024」を実現する。

◎目的

※事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）と、その解決のために何をするのかを記載してください。

行って楽しい、歩いて楽しい、ワクワクする楽しい街なかでありたい、そのために市民ができる中心市街地に活気を取り戻す方法はないだろうか。街なかの味気ない無表情のコンクリート壁面を何とかできないか、そうだと市民アートによってできるのではないかと考えた。発案から折衝・交渉・理解・承諾、そして実施まで市民に広報し市民と共有するまちづくりイベントとして実践する。これらの壁アートが街なかにアート作品が一つ一つ連なり、“ぬまづ まちなか美術館”を構成していくことをめざすものである。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容（打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会）、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。
	○昨年度、上土町の「大木ビル」を「壁アート2023」として実施するため市民公募したが、5作品しか集まらず、またふさわしい作品がなかったため、「該当作品無し」として実施を見送った。
	○壁アート2024として、上土町「大木ビル」で実施したい。 昨年見送った反省を踏まえ、「壁アート2024」は、確実に実施できるようにするため、市民公募によらず、地元の上土町商店街組合、沼津中央高校美術部、新進気鋭のアーティスト等にプロジェクトに加わってもらい、本会とのコラボにより壁アート作品を完成させたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年6月「壁アート2024」進め方確認、「大木ビル」所有者再調整、スケジュール確認 ・令和6年6月～7月「壁アート2024」作品に対してどのような意向・希望があるか、上土町商店街の方々にアンケート、ワークショップ等で把握する ・令和6年8月～9月「壁アート2024」作品を本会、高校生、アーティスト等とのコラボチームにより完成させる ・令和6年9月～10月「壁アート2024」作品の描画実施について調整 ・令和6年11月～12月 描画作業、「壁アート2024」完成

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載してください。

- 中心市街地のスポンジ化に対して、スポンジ化の象徴としてのビルの壁で囲まれた空間を市民アートによって描くことにより、醜く汚い公共の場の空間を美しくすることになり、街なかをワクワクする空間に造り変える
- 1箇所だけにとどまらず、すべての壁面を対象にすることによって、街なかを元気にしていく
- 街なか楽しい空間であることを再認識するようになり、街なかに人を呼び込むことにつながる
- 無表情な味気ないコンクリートの壁面を市民アートによって造り変えることができることをアピールすることになる
- 市民の力によって街なかを元気にする方法があることを市民に認識してもらうことができる
- 「壁アート 2024」は、ひとりの作品を描画するのではなく、地元商店街、高校生などのコラボチームにより作品を完成させ描画するものであり、みんなの力で実現できることを実感するものである。
- また、「壁アート 2024」の実現は地元商店街や若者たちといっしょになって創り上げていくというプロセスを共有するものであり、このまちづくりプロジェクトのプロセスの共有はこれからのまちづくりの大きな力になっていく。

<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定してください。 「壁アート 2024」プロジェクトに関わる人の数</p>	<p>指標の 検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載してください。 プロジェクト進行に関わる人・・・地元上土町商店街、高校生、アーティスト、本会等</p>
-------------	---	---------------------	---

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>社会的 必要性</p>	<p>※まちの活性化や魅力づくりのために有益であり、不特定多数の利益につながる質の高い事業であるか。 ・公共の場にある壁面を市民アートにより描くことで、市民が共有できる空間とすることができる ・「壁アート」を描くプロセスを市民に見える化・・・構想、企画段階から SNS 等により情報発信し、市民と共有する</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域課題の解決や地域資源の活用につながり、地域住民を巻き込めるか。 ・中心市街地のスポンジ化に対して、スポンジ化の象徴としてのビルの壁で囲まれた空間を市民アートによって描くことにより、街なかをワクワクする空間に造り変える ・地元上土町商店街の皆様といっしょに壁アート・プロジェクトを進めていく</p>
<p>独創性</p>	<p>※申請者ならではの着眼点や個性が見られ、新規性、チャレンジ性があるか。 ・市民アートによる共通認識に基づきコンクリート壁を造り変えること、これは街なかを元気づける上で画期的なこと ・「壁アート 2022」の進め方を発展的に組み立て直し、地元の方たちや高校生をからめての参加により進めていく</p>
<p>実現性</p>	<p>※資金やスケジュール、法令順守、関係者との調整に問題がなく、予算や効果が適正であるか。 ・「大木ビル」オーナーの承諾を得ている ・昨年実現できず見送った反省を踏まえ、「壁アート 2024」は、確実に実施できるようにするため、市民公募によらず、地元の上土町商店街組合、沼津中央高校美術部、新進気鋭のアーティスト等にプロジェクトに加わってもらい進めていく</p>

発展性	<p>※事業の波及効果が見込まれ、意欲をもって主体的かつ継続的な活動ができ、資金確保への取り組みも十分か。</p> <p>・無表情で味気なく醜い「壁」が存在することに対して何とかしたい思い、街なかを活気ある、ワクワクする空間にしたいという思いを賛同する市民・仲間とともに協働で取り組むまちづくりを未来につなげていく</p>
-----	---

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載してください（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

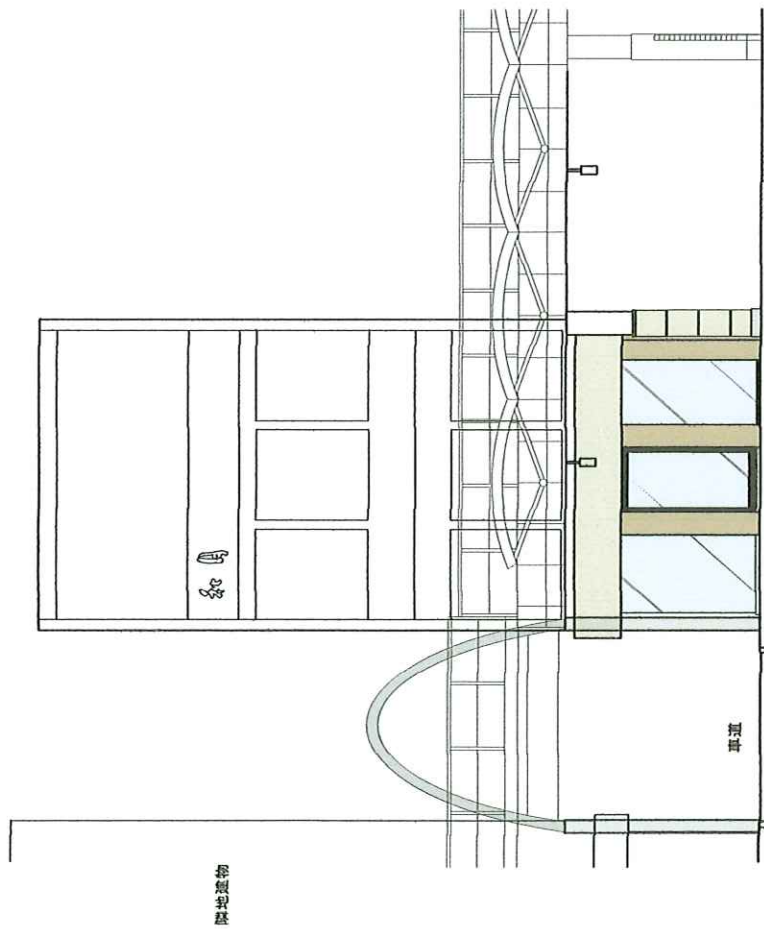
- 「壁アート 2022」が完了し、「壁アート 2024」がプロジェクト第2号として完了したのち、ビルの所有者・管理者等と交渉し、説明し理解を求めて、第3号、第4号を実現するため進めていきたい。
- 一番実施したいと考えているビル壁面は、沼津駅前の8階建てエイブル・コアビルで、高さも最も高く、壁面の面積も最も大きい。西武百貨店が撤退し解体されたことにより、大きな壁面が出現した。沼津駅の真正面に位置し、“沼津の顔”になり得る空間であり、美しく生まれ変わらせた。



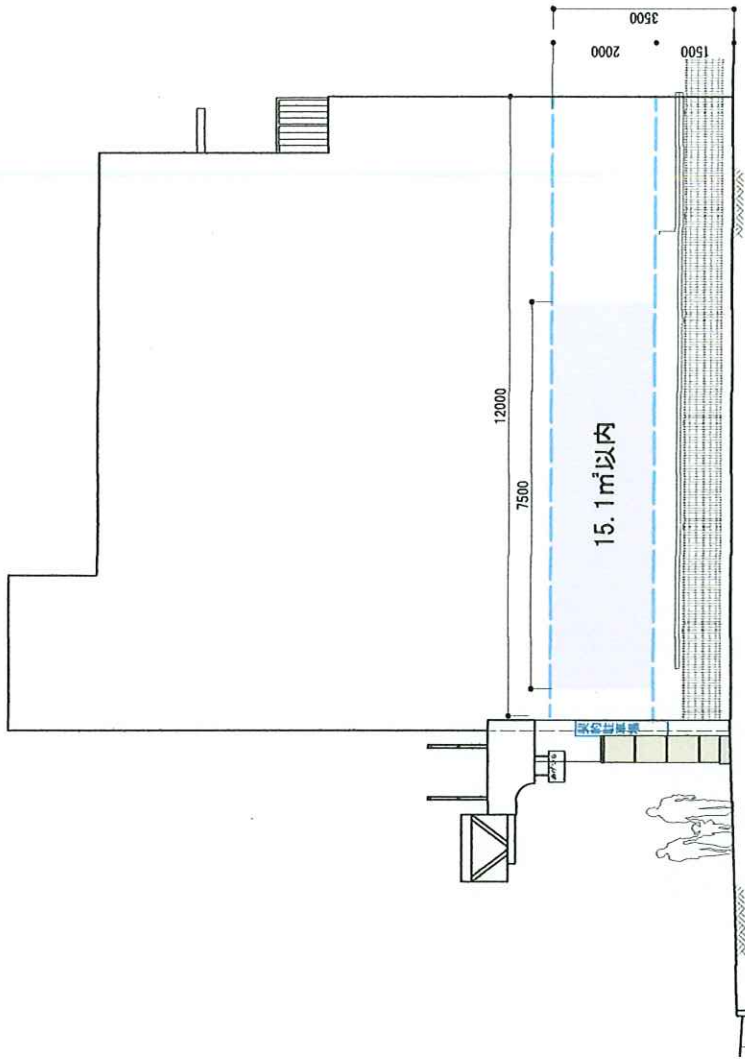
◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載してください。

- 令和2年度まちづくりファンド事業スタート支援事業の採択を受け、構想づくり、実施プログラム作成を行った。
- 令和3年3月、「街なかを市民アートでまちづくり構想提案」を仲見世商店街、新仲見世商店街、銀座通り、さんさん通り、本町通りの各商店街組合に説明し理解を得た。
- 令和3年12月及び令和4年1月、安田屋そば店、安田屋ビル・オーナーに説明し、理解され賛同と承諾が得られ、令和4年度まちづくりファンド事業ステップアップ事業の採択を受け、“ぬまづまちなか美術館”「壁アート 2022」を市民公募により作品募集し、27作品の中から公開審査により1作品を選考し、令和4年12月1日完成した。
- 市民公募の応募者から、最終選考は無理だったが「楽しかった」「ワクワクした」「沼津の街なかを見直してみるきっかけになった」などメールや電話等で多く寄せられた。
- 実現した「壁アート 2022」について、「明るくなった」「親しみが持てる絵」など多くのプラス評価の声が寄せられた。
- 令和4年度「壁アート 2022」が12m×8mの大画面であり足場等に多額の経費が掛かったことから、「壁アート 2023」は小規模な場所で実施したいと考え、上土町「大木ビル」12m×2mで実施すべく市民公募した。応募期間が12月～1月：年末・正月を挟んだ時期だったため応募が少なく実現できなかった。その反省を踏まえ、「壁アート 2024」は、確実に実施できるようにするため、市民公募によらず、地元の上土町商店街組合、沼津中央高校美術部、新進気鋭のアーティスト等にプロジェクトに加わってもらい進めていくこととした。



東側立面図 S=1:100



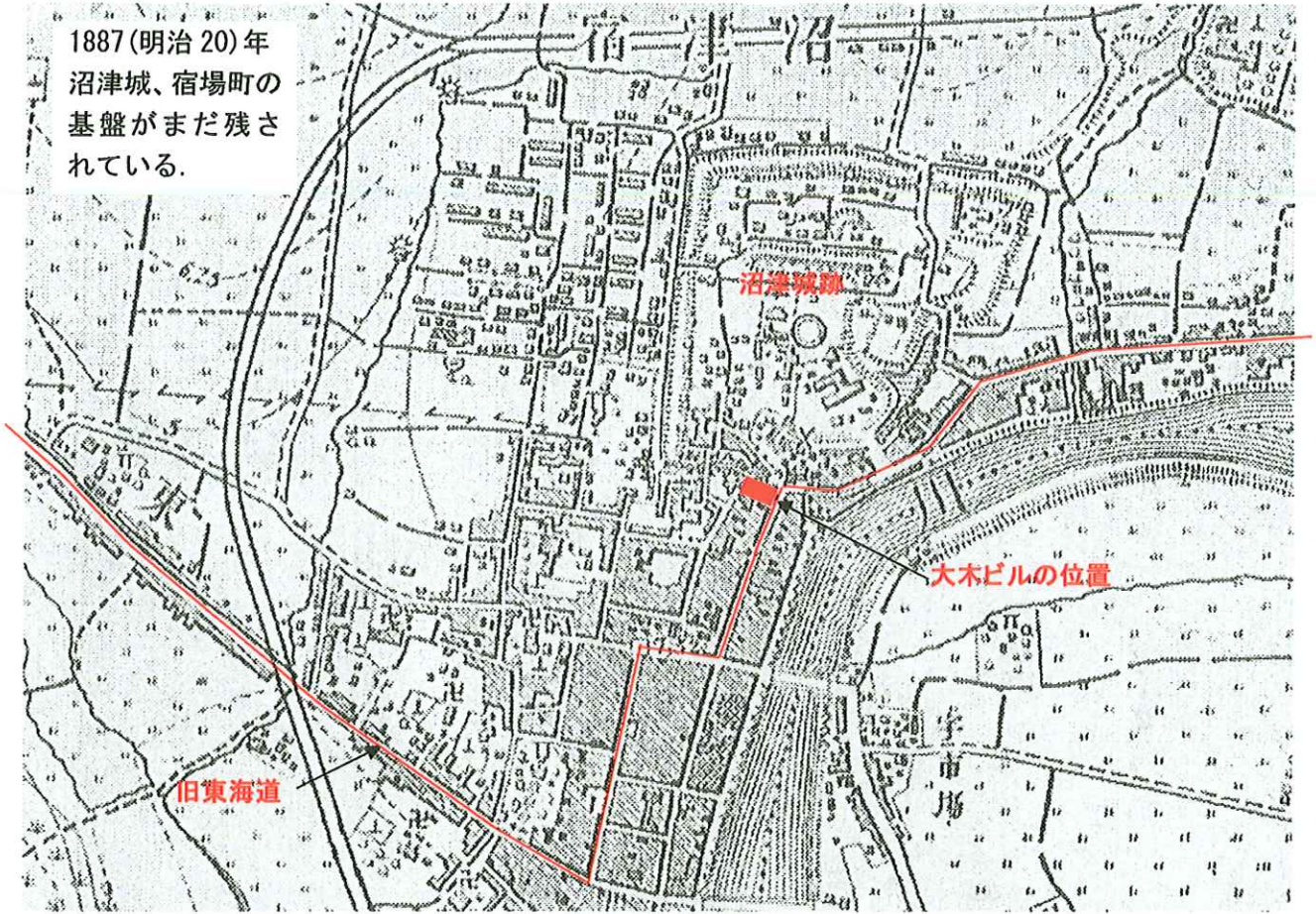
北側立面図 S=1:100

秋月 大木ビル ファサード S=1:100

壁アート2023の施工範囲

- 高さ 3.5メートル以下 地上1.5メートル以上の範囲
- ベタ塗りの場合の面積 15.1㎡以内
- 線画の場合、着色部分が15.1㎡以内

1887(明治20)年
沼津城、宿場町の
基盤がまだ残さ
れている。



大木ビルの位置

